

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
編集事務局 編集部
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
桑山ビル8階C号 室番
電話 (583) 19000
FAX (583) 19100
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印刷 株式会社 荒川印刷

理事長挨拶



理事長
伊藤仙游

厳しい暑さと激しい降雨の夏を過ぎ、空青く高く澄み渡る爽やかな季節となりました。会員の皆様には益々ご健勝の事と存じます。しかしながら地球温暖化の影響で、年々大型化する台風や線状降水帯など経験のない自然の猛威により、あちこちで被害が発生し他人事とは思えない状況です。こんな時こそ、他者を思いやる「仁」の心を発揮出来たらと思います。

コロナ禍による影響を受けながらも、今年度前半の事業につきましては、第七十回記念中日書道展の開催をはじめ各事業を何とか遂行させて頂き、皆様方のご支援ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。皆様ご承知のように、九月はコロナ第五波の到来により自粛ムードが高まりましたが、ワクチン接種の拡がりや影響したので

しよいか、十月に入り新規感染者が激減、様々の制限が解除され明るい方向に向かっています。手探り状態ではありますが、今後の事業運営も明るい方向に進むものと思っております。本会報でもお知らせしていますが、秋から冬にかけては「書道教育研修会」「第二回書の匠展」「第三十回記念書展」「公開講座」「チャリティー愛の募金(できるだけ多くの方に協力をお願い致します。)、」年が明けますと「第七十二回中日書きぞめ展」と続いております。また、「第七十一回中日書道展」の準備も年末から既に始まっております。各支部では独自の事業も展開しております。これらを含めて全ての事業は本会のホームページで公開しており、中日新聞記事等により、会員のみならず一般市民の参加も歓迎致しております。ホームページ等を是非ご覧下さい。各事業の運営につきまして事務局一同、「二致協力・前向き」をスローガンに頑張っております。何とぞ絶大なご支援ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

「令和3年 チャリティー愛の募金」について

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は、本会の福祉事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、本会では、毎年年末に「チャリティー愛の募金」を行っております。

つきましては、本会役員の先生方並びに会員の皆様には広く献金をお願いし、中日新聞社会事業団・東海テレビ「愛の鈴」へ寄託をして参りたいと思います。何卒主旨ご理解の上、下記の通りご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この募金の締め切りを、令和3年11月末といたします。

お申し込みは、郵送された専用振込用紙をご使用の上、お振り込みください。

尚、献金の経過並びにご芳名は1月発行の中日会報でご報告をさせていただきます。

敬 具

理事長 伊藤仙游
渉外宣伝部長 田中修文

目次

- 1 理事長挨拶 理事長 伊藤仙游
チャリティー愛の募金
- 2 第七十回記念中日書道展
特別企画 令和を拓く大作展
行事予定表「十月〜三月」
- 3 令和3年度書の匠展
第三十回記念書展
- 4 第七十二回 毎日書道展入賞者
第三十七回 読売書法展入賞者
- 5 第二十五回 書の魅力 公開講座
第四回 手書き文字年賀状作品募集
- 6 第七十二回 中日書きぞめ展作品募集
支部だより(上半期)

ご献金にお願いの基準

名誉会長代行、名誉副会長、常任顧問、理事、 監事、顧問	10,000円
参与、評議員	3,000円
正会員	1,000円

チャリティー募金は寄付金として控除できます。

確定申告時には、領収書と証明書が必要です。領収書をご希望の方は本部事務局までご連絡ください。

証明書は中部日本書道会ホームページから印刷できます。

ホームページ <http://cn-sho.or.jp/> メール info@cn-sho.or.jp

団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化
ユネスコの無形文化遺産に

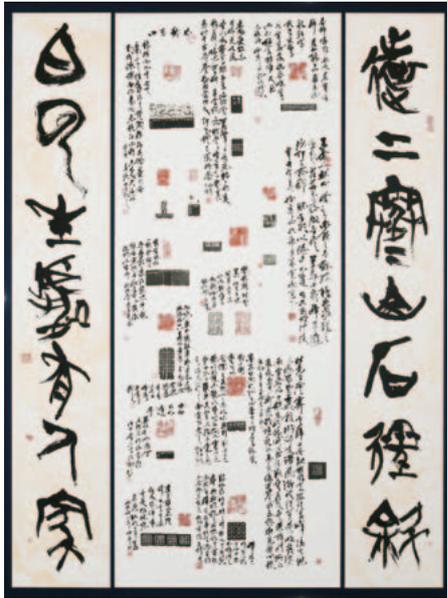


第七十回記念
中日書道展

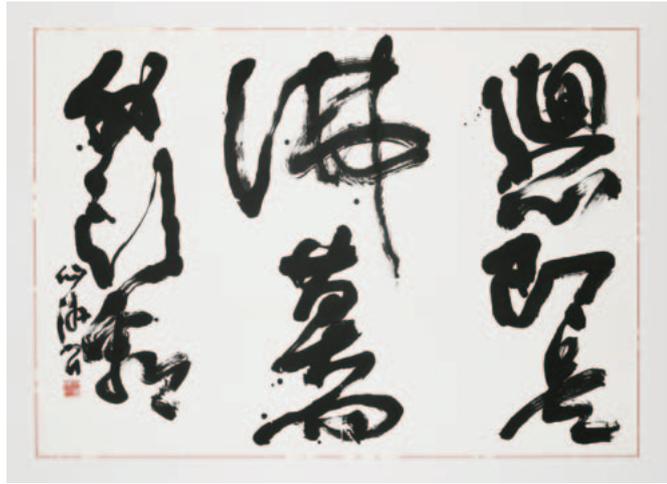
特別企画

令和を拓く大作展

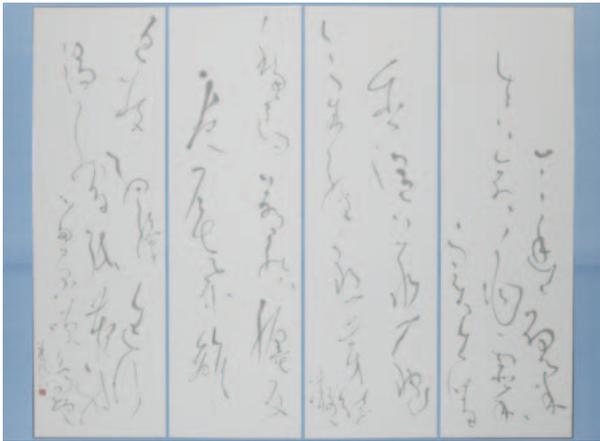
令和元・二年度中日書道会企画委員
三十名による六尺×八尺揮毫作品



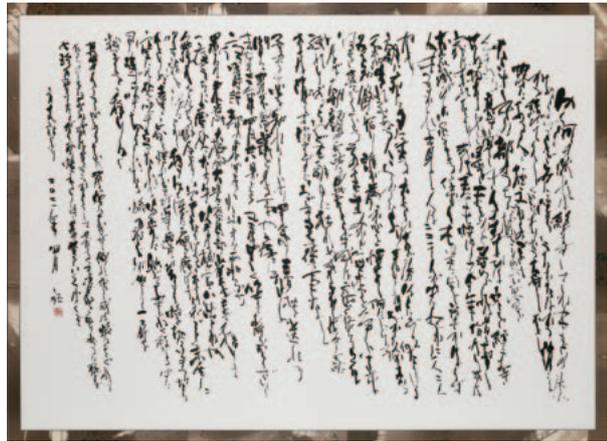
岡野楠亭 副理事長 (楠亭朱跡)



伊藤仙游 理事長 (寒山詩句・廻心即是佛 莫向外頭看)



松下英風 副理事長 (あわのうた)



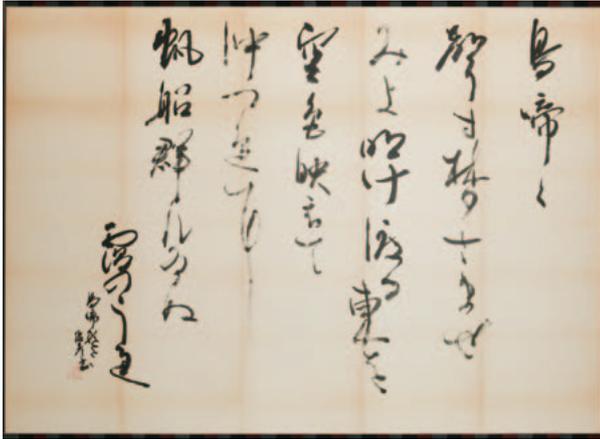
加藤 裕 副理事長 (方丈記)



大池青岑 企画委員長 (李太白詩)



横井宏軒 事務局長 (鮑照詩)



村瀬俊彦 庶務部長 (鳥啼歌)



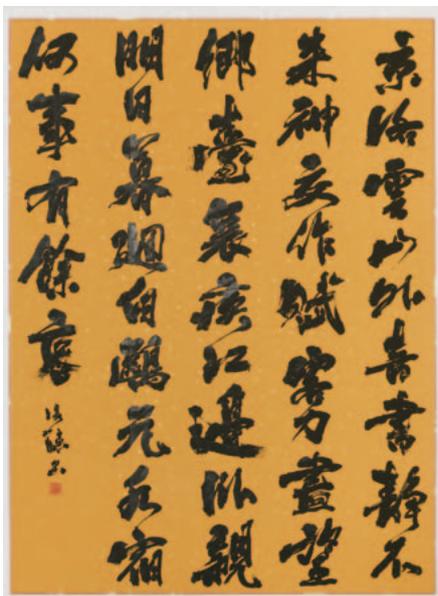
天野白雲 総務部長 (白楽天詩)



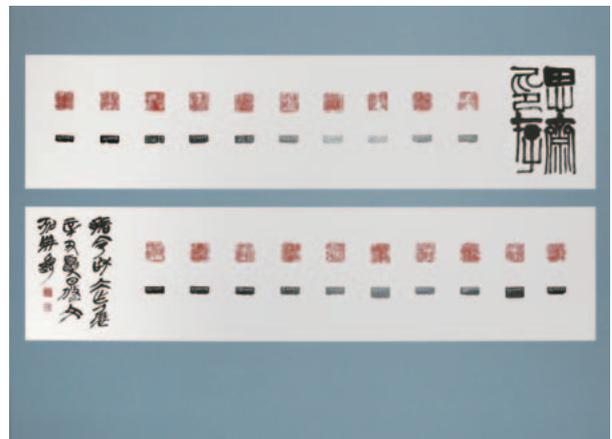
上小倉積山 第二企画部兼IT部長 (戢鱗潛翼)



佐野翠峰 第一企画部兼IT部長 (癒)



磯谷凌聴 第二経理部長 (杜甫詩)



田中修文 第一経理部長 (思齋印存)



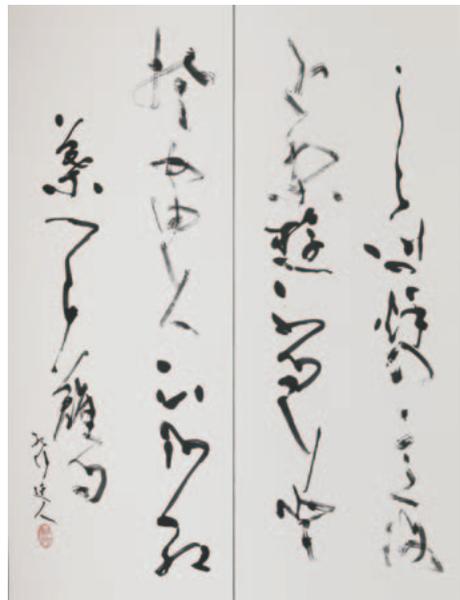
後藤啓太 第一事業部長 (鐵虎)



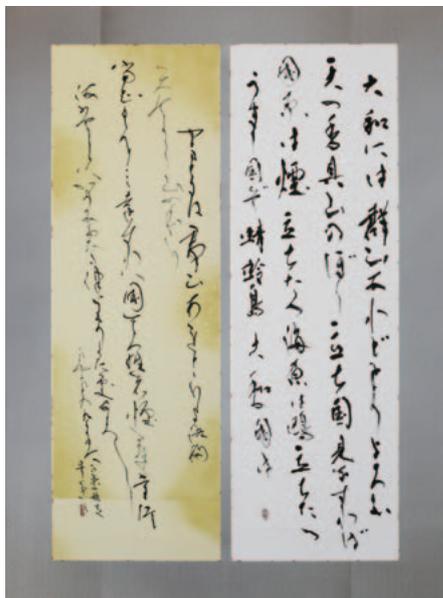
内田翠徑 会員部長 (徐凝詩)



武内峰敏 研究部長 (「幻華」より)



馬場紀行 第二事業部長 (秋の彩り)



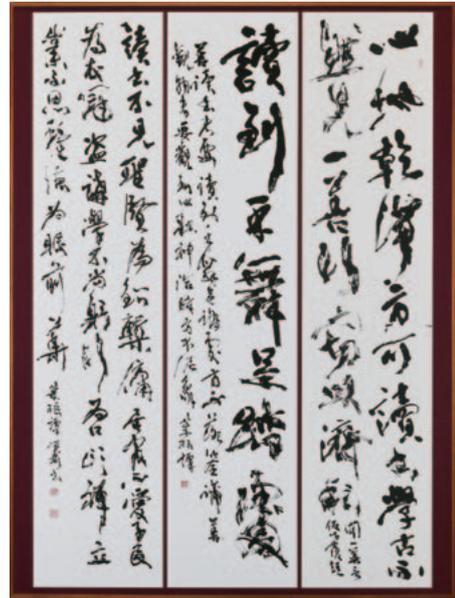
水野峯翠 褒賞部長 (万葉の歌)



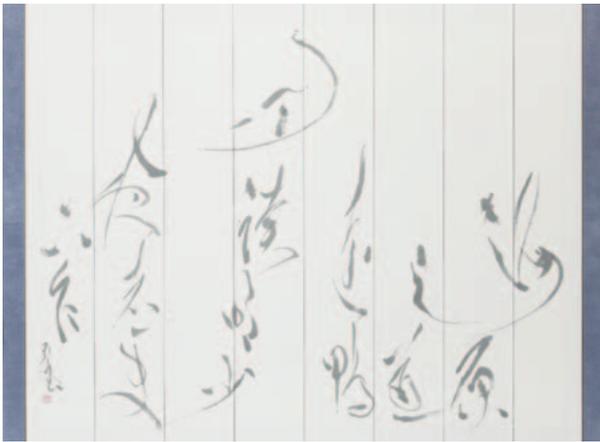
廣澤凌舟 教育部長 (竹内勝太郎詩「空の雲雀」)



山中桂山 記録統計部長 (春の悲哀)



川崎尚麗 渉外宣伝部長 (菜根譚・讀書)



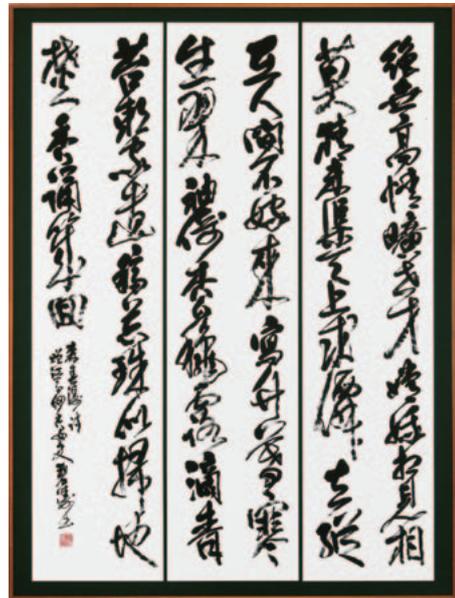
古川昇史 厚生部長 (万葉集・巻第七・一〇七五)



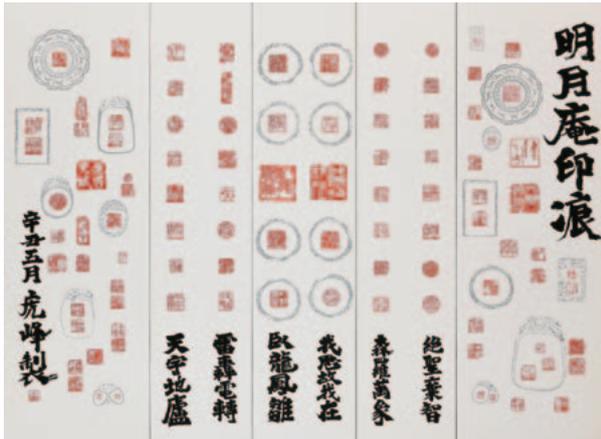
林 柏堂 編集部長 (壽至蓬萊不老僊)



山内江鶴 半田支部長 (葛子琴詩)



川浦碧濤 一宮支部長 (森春濤詩)



林田虎峰 東三河支部長 (明月庵印痕)



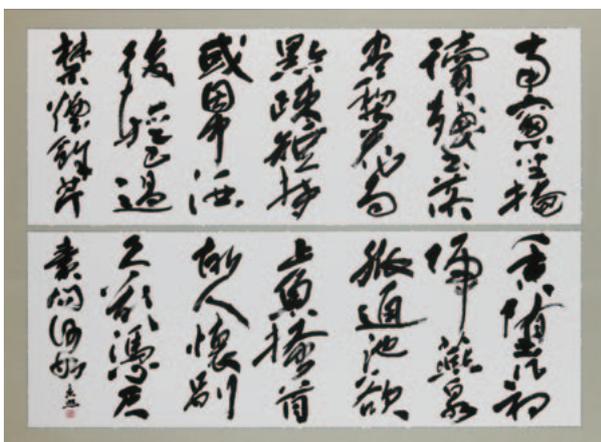
加藤松雲 西三河支部長 (題金華余仲揚山水)



伊藤州亭 北勢支部長 (杜子美詩・四首)



三野島凌雲 濃飛支部長 (鄧完白詩)



坪井景照 岐阜支部長 (甘瑾詩)



谷 鴻風 中南勢支部長 (曹植詩・盤石篇)

令和3年(2021年)度 公益社団法人中部日本書道会

行事予定表「10月～3月」

※各事業につきまして変更になる場合がありますので、各事業のご案内でご確認をお願いします。

月	日	曜	本 部	支 部 「支部展・支部集会・交流会・講演会・研修会」	
10月	17	日	第33回書道教育研修会（国際センター）		
	30	土		一宮支部講習会（一宮市民会館）	
	下旬		中日会報202号発送（予定）		
11月	8	月	第2回書の匠展・第30回記念壽書展 搬入・陳列		
	9	火	第2回書の匠展・第30回記念壽書展（電気文化会館）		
	10	水	〃	中南勢支部展（三重県立美術館ギャラリー）	
	11	木	〃	〃	
	12	金	〃	〃	
	13	土	〃	中南勢支部集会（三重県立美術館講堂）	
	14	日	〃 搬出	第25回公開講座 （電気文化会館）	中南勢支部展（三重県立美術館ギャラリー）
	27	土			第66回一宮支部展・第49回一宮支部学生書道展 （一宮スポーツ文化センター）
12月	24	金		岐阜支部展（岐阜市民会館）	
	25	土		〃	
	26	日		〃	
2022年 1月	2	日		東三河子ども書道展（豊橋市ココニコ子供館）1月10日(月)迄	
	20	木	第72回中日書きぞめ展搬入締切（本部）		
	23	日		半田支部公開書道研修会（半田市福祉文化会館）	
	下旬		中日会報203号発送（予定）		
2月	1	火		東三河支部選抜展（豊川市桜ヶ丘ミュージアム）	
	2	水		〃	
	3	木		〃	
	4	金		〃	
	5	土	第72回中日書きぞめ展審査	〃	
	6	日	評議員会・講演会・祝賀懇談会	〃	
	16	水		西三河支部会員展（岡崎市美術館）	
	17	木	第71回中日書道展 書類発送	〃	
	18	金		〃	
	19	土		〃 西三河支部集会・講演会（岡崎商工会議所）	
	20	日		〃	
27	日		一宮支部集会・講演会（一宮スポーツ文化センター）		
3月	12	土	第72回中日書きぞめ展（ナディアパーク）		
	13	日	第72回中日書きぞめ展表彰式（ナディアパーク）		

第七十二回

毎日書道展入賞者

〔本会会員関係分〕
〔東海展出品者名簿より〕



祝

文部科学大臣賞

副理事長 加藤 裕



きから含蓄のある線を生み出している。」

(毎日新聞より)



第七十二回毎日書道展の文部科学大臣賞に、漢字部の加藤裕さんの「晏處超然」が選ばれた。同賞は毎日書道展に出品された役員から一般公募までの全作品から選ばれる同展の最高賞。受賞作は「老子」から出典で「堂々たる存在感。少ない筆の動きから含蓄のある線を生み出している。」

文部科学大臣賞

〔漢字部〕

加藤 裕

毎日賞

〔漢字部Ⅰ類〕

青山 高陽

〔近代詩文書部〕

加藤 貴咲

高橋 花柊

平岡 妙紅

秀作賞

〔漢字部Ⅰ類〕

高橋 白羊

村上 史麗

森 政子

〔漢字部Ⅱ類〕

岡野 敬子

土屋 春聲

佳作賞

〔漢字部Ⅰ類〕

神谷千恵子

小林 青華

近藤 瑤華

田中 雅子

横井 吟紅

佳作賞

〔漢字部Ⅰ類〕

大城 紫萌

大橋 一氏

兼子 圭葉

瀬古 麗峰

村上 影月

U23新鋭賞

〔漢字部Ⅰ類〕

秋田 夏美

三枝 愛実

〔近代詩文書部〕

三枝 愛実

U23奨励賞

梶田 夕貴

〔大字書部〕

中橋美恵子

森下喜久子

井上 香苑

山本 裕子

泉 好子

大城 紫萌

大橋 一氏

兼子 圭葉

瀬古 麗峰

村上 影月

〔漢字部Ⅱ類〕

片桐千賀子

庄司 梨陽

高橋 麗水

羽柴 苔谷

深谷 勇介

〔近代詩文書部〕

大沢 真弓

梶田 汀雨

小島 徹

谷口 大観

富田 梢峰

長谷川春汀

松原 楽朋

三上 啓鳳

宮本 清霞

村上 薫仍

村田 華雪

安岡 明信

〔大字書部〕

竹内 紫燕

第三十七回

読売書法展入賞者

〔本会会員関係分〕
〔中部展出品者より〕



読売大賞 (かな) 塚田 俊可

読売大賞

〔かな〕

塚田 俊可

読売準大賞

〔漢字〕

梶山 盛涛



読売準大賞 (調和体) 馬場 紀行

〔調和体〕

馬場 紀行

読売準大賞 (漢字)

梶山 盛涛



読売新聞社賞

〔漢 字〕

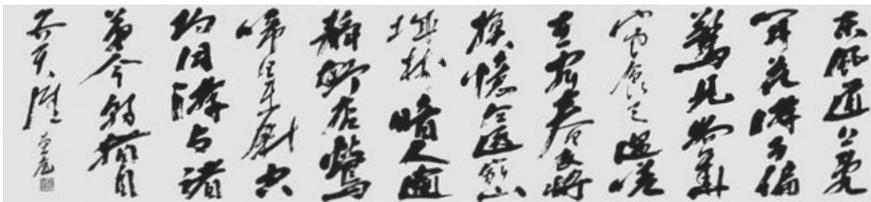
深谷 恵庭

〔か な〕

若杉 美香

〔調和体〕

堀部 保子



読売新聞社賞 (漢 字) 深谷 恵庭

読売俊英賞

〔漢 字〕

杉山 瓊川

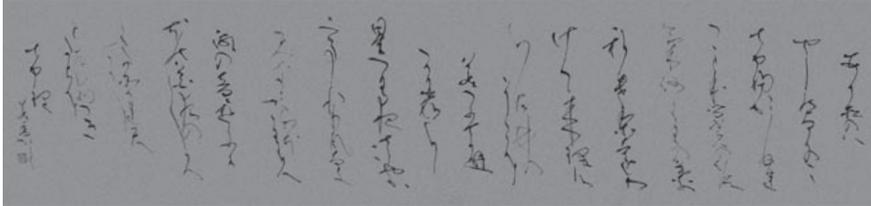
勅使河原恵翠

中川 瑞玉

長屋 天虹

〔か な〕

永井 友理



読売新聞社賞 (か な) 若杉 美香

読売奨励賞

〔漢 字〕

今村 寿鴻

奥村 三葉

加藤 艸舟

國島 英華

三代 雄峯

〔か な〕

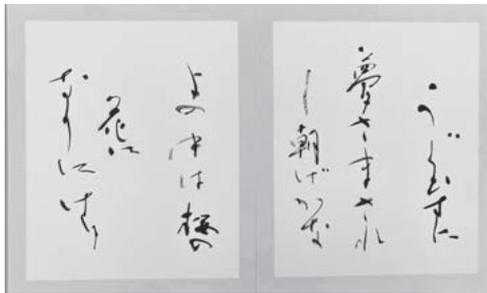
服部美枝子

〔篆 刻〕

水谷 有志

〔調和体〕

千葉 晨翠



読売新聞社賞 (調和体) 堀部 保子

特 選

〔漢 字〕

伊藤 舒榮

稲垣 輝彩

大場 敏充

草野 慧泉

新宮 緑園

西澤 晴香

西田 康華

野村 揚月

山田 真如

山本 祥仙

〔か な〕

大嶋由美子

加藤 玉華

加藤こづみ

藤社 葉子

丹羽 博美

堀田 花

山口 晶子

水田 美泉

〔調和体〕

秀 逸

〔漢 字〕

浅井 祥舟

家田 翠徑

伊藤 玉冰

猪又 松峰

宇佐美吉恵

大野 彩

木村 明峰

岡田 翔鳳

門松 静紗

熊谷 石華

近藤 星崖

佐藤白山風露

鈴木 雲峰

鈴木 白翎

鈴木 悠水

千田 光麗

竹田 景汀

出川 祥泉

遠山 柳恵

外山 悠汀

豊島 積流

内藤 蒼月

野田 佳楊

羽田野江楓

浜島 緑風

原田 溪華

福山 恵山

前野 秋豊

牧野 秋陽

松田 香雨

安田 雪篁

鷺野 春翠

朝比奈祥鳳

阿部真由子

伊藤 英美

稲吉小夜子

小野由紀子

小野田美晴

金倉あゆみ

川本 俊子

倉橋 松容

小島 幸波

近藤 由果

佐藤 悦子

杉浦 悦子

土屋 香風

吉村佳代子

吉村真由美

近藤 雲洋

佐藤 敬介

佐野 麦静

長谷川拓石

菱川 武

吉原 愛璃

伊藤 稚子

大野 蘭香

木村 輝扇

柴田 桃花

豊嶋 青岑

中西 晶聲

夏目 美沙

西脇 聖園

平松 圭鳳

※両展共、記載につきましましては極力注意をしておりますが、漏れがございましたら本部までご連絡下さい。次号に掲載させていただきます。

令和3年度 第25回 書の魅力 公開講座

会員及び一般市民を対象に、中部日本書道会を代表する2名の講師が書の魅力について講演します。

11月14日(日)

受付 12:30

開会行事 13:00

第一講座 13:15~14:15

講師：顧問

片山清洲 先生

演題：古典を踏まえた作品づくり

第二講座 14:35~15:35

講師：理事

武内峰敏 先生

演題：書の創作要訣

閉会行事 15:35

会場 電気文化会館
イベントホール (5階)
名古屋市中区栄2-2-5

日時 令和3年11月14日(日)

会費 無料
(ただしテキスト・資料代として2,000円集めさせていただきます)

対象 15才以上で原則として2講座とも聴講できる方

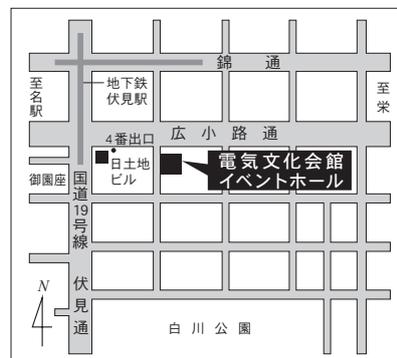
定員 80名(先着順)

締切 10月14日(木) ※受講のお知らせは締切後、発送します。

申込 (1)郵便番号、住所 (2)電話番号 (3)氏名(ふりがな)を記載し、ハガキまたはメールで下記迄に申し込み下さい。

ハガキ申込先 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号
桑名ビル8階 C号室
中部日本書道会 公開講座係

メール申込先 koukai@cn-sho.or.jp



令和3年度 書の匠展 開催 会期 令和3年11月9日(火)~11月14日(日)
第30回記念 壽書展 会場 電気文化会館 (5階 東・西ギャラリー)

主催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社 後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

第4回 手書き文字年賀状作品募集

公益社団法人中部日本書道会では、下記の通り年少者~高校生を対象とした第4回「手書き文字年賀状コンクール」を開催します。個性あふれる心温まる手書きの年賀状を奮ってご応募して下さい。優秀作品を本会ホームページに掲載し、入賞者には図書カードを贈呈します。

応募規定 ・出品料は無料。一人1点のみの出品とし、郵便葉書の大きさに限る。(縦横は自由)
・イラスト等入っても可とするが、必ず手書きされたものに限る。
・筆記用具は自由とし、小学校3年生以上は毛筆(筆ペンを含む)を奨励する。
・宛名面左側に郵便番号・住所・氏名・学年(年少者は年齢)を明記の上、下記送付先に郵送のこと。

応募資格 ・年少者~高校生

応募締切 ・令和4年1月21日(金) 必着

**作品送付
問い合わせ先** ・〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑名ビル8階 C号室
公益社団法人中部日本書道会「手書き文字年賀状コンクール」係
TEL (052) 583-1900

入賞発表 ・1月末(予定)に本会ホームページにて優秀作品を掲載し発表とする。
・ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

第72回 中日書きぞめ展作品募集

◆会 期 令和4年3月12日(土)・13日(日)

12日(土) 午後1時～午後6時
13日(日) 午前10時～午後6時

◆会 場 ナディアパーク2F アトリウム

名古屋市中区栄3丁目18番1号

◆授 賞 式 令和4年3月13日(日) 午後2時

ナディアパーク3F デザインホール

理事長賞以上の生徒さんへ出席していただきます。

◆褒 賞

文部科学大臣賞、衆議院議長賞、参議院議長賞、愛知・岐阜・三重各県知事賞、名古屋市賞、愛知・岐阜・三重各県議会議長賞、名古屋市会議長賞、愛知・岐阜・三重各県教育委員会賞、名古屋市教育委員会賞、記念賞、中日書道会賞、中日新聞社賞、東海テレビ放送賞、CBCテレビ賞(以上申請中)、名誉会長賞、理事長賞、推薦、奨励賞、特選、準特選、秀逸、佳作、入選 ※会場には奨励賞以上の作品を陳列します。

★本年はCBCテレビ賞以上の作品を中日展(一般部展覧会)愛知県美術館ギャラリー8階に令和4年6月15日(水)～19日(日)まで展示致します。

◆資 格 幼年・小学生・中学生・高校生

◆課 題 自由

◆出品要項 詳しい出品要項出品目録が中日書道会本部にありますのでお問い合わせ下さい。

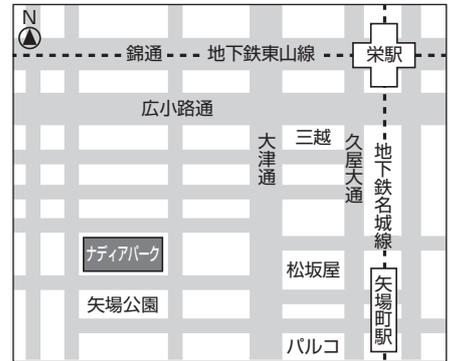
◆作 品 ○用紙は、半切1/4縦(ハツ切) ※高校生は半切縦も可 ○作品は、表装しないこと。
○書体は、幼・小=楷書、中=楷書又は行書、高校生=自由
○作品には、学年・氏名を必ず明記すること。

◆出 品 料 一点につき400円(個人出品者は賞品、賞状の郵送料として300円を加算して下さい。)

◆搬入締切 令和4年1月20日(木) 午前10時～午後3時
(送付される場合は19日(水)中部日本書道会本部必着をお願いします。)

◆搬入場所 公益社団法人 中部日本書道会
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室
担当 第一教育部長 武内峰敏
TEL <052> 583-1900 FAX <052> 583-1910

◆取 扱 所 伊藤大林堂、永楽堂、應天堂、魁盛堂、伽藍、菊屋商店、高誠堂、小松表具店、書遊 平野筆墨堂、青柳堂、大玄堂、長楽齋筆舗、名古屋キョー和、名古屋ホウコドウ



あしがき
中日会報二〇二号をお届けいたします。
本号では、第七十回記念中日書道展 特別企画『令和を拓く大作展』出品作品三十点を掲載いたしました。また、毎日書道展に於いて、文部科学大臣賞ご受賞の副理事長加藤裕先生作品を、読売書法展では上位賞入賞作品六本の掲載もさせて頂いております。
本会先生方の実力の高さ、多様性をご紹介出来たのではないかと思います。
毎年恒例となっております「チャリティー愛の募金」「公開講座」「書きぞめ展」等本会事業へのご協力も、宜しくお願致します。コロナ禍の不自由な中、ご自愛下さい。
(編集部)

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>
メールアドレス info@cn-sho.or.jp

社中展・個展のご案内掲載について
本会会員による書展のご案内を会報及びHPにて掲載させていただきます。会報掲載には、展覧会案内原稿、HP掲載には展覧会案内ハガキをお送りください。尚、展覧会原稿及びハガキは、必ず封書にてお送りください。次号掲載は、二月下旬～五月中旬開催の展覧会となります。お申し込みは、十二月二十日までに本部へお願いします。
編集部

新入会員紹介 (九月份)		計 報	
●本 部	石神理柳	○9月2日	理 事 後藤啓太氏
	押田英子	○9月16日	顧 問 百子様
	久米紘世	○9月28日	顧 問 武山昂石氏
	村瀬光泉		顧 問 倉重拜石氏
	村田恵紅		ご令室 早智子様
		事後報告	
		○7月3日	正会員 榊原悠園氏
		○7月29日	顧 問 渡邊筆鶴氏
		○令和2年11月17日	正会員 室 静代氏
			享年 86
			享年 84
			享年 97
			享年 74
			享年 84
			享年 80
			享年 84

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

支部だより (令和三年度) 上半期

一宮支部

●第一回部長会

日時 四月十一日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
出席者 部長会、十六名

●第二回部長会

日時 六月六日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
出席者 部長会、十六名

●臨時部長会

日時 七月十一日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
出席者 部長会、十六名

●第三回部長会

日時 八月二十二日(日)
会場 真清田神社参集殿
出席者 部長会、十六名



第3回部長会
於：真清田神社参集殿



第48回七夕まつり学生書道展 (上)
第27回選抜作品展 (下) と併催



いちのみや市百周年記念展
iビル3F シビックテラス

※第四十八回一宮七夕まつり学生書道展
※第二十七回選抜作品展【役員・指導者の
小作品展】
日時 七月十日(土)～十一日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
来場者数 一、一〇〇名

※市制百周年記念一宮市芸術文化協会協賛
いちのみや市百周年記念展
日時 八月二十七日(金)
～二十九日(日)
会場 一宮駅前iビル三階
シビックテラス
来場者数 九二六名

上半期の行事には、支部協力体制にて参加をしました。コロナ禍の現状下、様々な制限のもと、無事開催実施終了とすることが出来ました。

半田支部

●第五十七回学童書道展

会期 七月十七日(土)～十八日(日)
会場 半田市福祉文化会館
出品数 一、七八八名

昨年の学童書道展は新型コロナウイルス感染拡大を受け中止いたしました。

本年もまだまだコロナ禍が終息する気配はありませんが、その中でも一頃には状況が落ち着きだしたので企画委員会で各先生方のご意見を伺い万全な対策を施し開催することにしました。心配していた出品数も前回より約一〇〇点ほど減少したものの沢山の出品をいただきました。

コロナ禍の中で行うため、審査・作品展示・授賞式等は例年よりも大幅に人員削減をし支部企画委員の先生方と一部担当部員の先生方で行いました。

会期中は、入口でマスクの着用・手の消毒・検温・来場者用紙記入・入場者制限等をお願い致しました。

来場者は私たちの予想を超えた一、六一八名の方にお越しをいただきました。やはり子供たちの力は強いようです。出品していただ



学童展会場風景



展示作業



学童展表彰式

いた先生方には大変感謝いたしております。
事務局員一同協力して作用を行い、大きな問題もなく無事に終了することができました。

西三河支部

●第五十四回学生書道展

期 日 令和三年七月九日～十一日

場 所 岡崎市美術館

出品点数 四、六六八点

(うち高校生二六九点)

入場者数 一、三二八名

学生展は、毎年テーマを決めて開催しており、今年は、オリンピックの年でもあるので「はばたく」とした。コロナ禍のため審査、搬入作業など少人数で行い、また展示作品も特別賞以上とした。

(課題)

幼 年	にじ	一 年	とり
二 年	そら	三 年	自由
四 年	大空	五 年	栄光
六 年	太陽	中 一	前進
中 二	新風	中 三	創造
高 校 生	希望実現		

課題決定から賞品発送までの作業を事務局員でなるべく少人数で行なうようにし、大きなトラブルもなく無事終了することができました。



学生展会場風景



展示準備作業



審査風景

東三河支部

●東三河支部展

会 期 六月二十九日(火)

七月四日(日)

会 場 豊橋市美術館 第三展示室

出品者 支部会員

出品数 九十六点

本部から伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長、四名の先生方の玉作を賛助出品していただき、第四十四回東三河支部展を開催しました。

本年度はコロナウイルス感染防止対策に最善の注意を払い、開催することができました。前年中止となり、これまで蓄積されたエネルギーが一度に開花した花の如く書作品が展示され、華やかな中にも凛として気高い展示会となりました。第七十回記念展に飾られた古川昇史先生、林田虎峰先生の大作も展示され多くのお客様が興味深く見入っていました。

ご来場いただいたお客様や諸先生方から温かい励ましやご指導を賜り、盛会のうちに展覧会を終えることができました。

●講演会

日 時 七月三日(土) 午後三時半

会 場 ロワジュールホテル豊橋

講 師 理事長 伊藤仙游先生

演 題 「書と私と王鐸」

講演会は伊藤仙游先生の生い立ちから始まり、王鐸との出会いから今日に至るまでの書の道のりを講話され、自らの書に反映された多くの資料をもとに解説していただきました。また、席上揮毫をして下さり、

使われる剛毛筆の説明、運筆のリズム、筆づかい、落款に至るまでを具体的に教えていただきました。

●支部集会

日 時 七月三日(土) 午後五時

会 場 ロワジュールホテル豊橋

参加者 五十六名

本部から伊藤仙游理事長、横井宏軒事務局長のご臨席を賜り、令和三年度東三河支部会員集会を開催しました。令和二年度の事業報告、収支決算、令和三年度の事業計画、収支予算案、新事業として前年度延期になった「東三河こども書道展」の開催計画案が報告されました。その後、第七十回記念中日書道展の入賞者が紹介され、会員一同盛大な拍手でお祝いしました。今年コロナ禍のため、最後にお弁当を持ち帰っていただき解散となりました。



支部展



支部集会



講演会

濃飛支部

第三十五回支部展

今年の支部展は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて行い、昨年度中止だったため二年ぶりの飛騨高山での開催となりました。高山市民文化会館三階大講堂にて、会員作品七十点を展示。コロナ対策により受付検温を実施しながら、延べ計三五〇名の来訪がありました。期間は、令和三年七月三十日(金)十三時〜令和三年八月一日(日)の十六時までで、理事長伊藤仙游先生、副理事長岡野楠亭先生、副理事長加藤裕先生、副理事長松下英風先生の賛助出品も加え、支部長の大作や会員の力作など、来訪者から多種多様な作品にご指導ご鞭撻をいただきました。

支部総会

今年の支部総会は、令和三年八月一日の午後一時三十分より、高山市民文化会館二階会議室にて、役員他三十名、委任状出席含め計四十二名の参加で行いました。

令和二年度事業報告、収支決算報告、監査報告を受け承認されました。次に令和三年度支部役員を三野島凌雲支部長他、令和二年度の事業計画案、収支予算案が提案され、いずれも承認されました。今年度は支部展・講演会の開催は行いつつ、コロナ禍により交流会は中止といたしました。以降、コロナ禍の動



支部展



講演会



飛騨国分寺訪問

向を注視し、書の基礎体力を維持しつつ、肉質の古典との格闘など会員各々の書道鍛錬を怠らず、邁進することを確認し合いました。

講演会

引き続き、午後二時三十分より午後四時まで、総会と同会場にて、講師の中部日本書道会理事長の伊藤仙游先生より、演題を「書と私と王鐸」として、会員や一般の方三十五名に、日本を代表する書家として精進してこられた歩みも加え、「王鐸」との出会いや「王鐸」のすがたから、秀でた作品を生むためには、書の最高水準についての確固たる信念・認識が、作品への感銘につながるという、先生の「書と私」の講演は、大変貴重な講演となりました。また、「書の深さ・魅力」を「王鐸」を事例に歴史的背景を踏まえ講演され、講師の書に対する熱い想いが伝わってきました。

さらに、二行草作品の実演も追加で行われ、時間があつという間に過ぎてしまいました。ありがとうございました。

※講演に先立ち、講師と市内の飛騨随一の古刹、「飛騨国分寺」を訪問し、講師の父・岐草県を代表する日展書家の伊藤天游先生がご寄贈された「高山雑詩」の日展作品をご高覧し、お参りをさせていただきました。

北勢支部

第三十四回北勢支部展

会期 七月十六日(金)〜十八日(日)
会場 四日市文化会館第三展示室

出品数 六十七点

賛助出品(本部より) 四点

入場者数 二五〇名

漢字・仮名・少字数・篆刻等、額・軸装各々の力作が並ぶ。昨年の講習会で作成した染色も並ぶ。書の体験コーナーも設置。陳列から後片付けまで会員の皆様の協力によりコロナ禍の中、無事に開催出来ました。

支部集會

日時 七月十八日(日)

会場 四日市文化会館第三ホール

本部より伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、松下英風副理事長のご臨席を賜り、令和二年度事業報告、収支決算報告、令和三年度事業計画案、予算案が承認されました。続いて中日書道展での記念賞(三名)、準大賞(四名)、桜花賞(二名)が紹介されました。

講演会

講師 理事長 伊藤仙游先生
演題 「書と私と王鐸」

五歳で筆を持ち、二十六歳で日展初入選、五十八歳で二回目の日展特選、その後日展会員就任までの経歴、王鐸との出会いを熱く語られる。明王朝に任えた王鐸は激しい政治闘争を生き抜き、翰林院に入り天子の詔の草稿を作成。王鐸は背が高く大きな声で話し、色々な材質(布)に書を書き、自由奔放かつ大胆な書が多く残されている。この様な事を語る仙游先生の楽しげなお姿が印象的でした。その後、六枚もの半切作品揮毫を拝見出来たと好評でした。又、三枚の色紙作品をご持参して頂いており、参加者によるジャンケンゲーム。最高の盛り上がりでした。王鐸をこよなく愛される先生のお話にすっかり魅了され有意義な時間でした。(参加者七十八名)



北勢支部展会場作品を鑑賞される本部先生



北勢支部講演会 伊藤仙游先生



北勢支部講演会 伊藤仙游先生揮毫風景

中南勢支部

中南勢支部は下半期に行事が集中しております。ただこの時期、新型コロナウイルス蔓延期に各事業が開催できるのかどうか、大変迷っております。三月より七月まで役員会を重ね、支部作品展、集会、講演会は開催し、反省会とバスでの奈良万葉の里研修会を中止することを決定しました。

三重県立美術館県民ギャラリーに於いて令和三年十一月十日午後より十四日四時までを作品展示し、その期間中十三日に集会と講演会を開催する運びとなりました。八月には会員の皆様に作品展のご案内を致しました。その後県内も緊急事態宣言が発令され、その上延長となり収束の目途が立たないままのスタートとなってしまいました。十一月には作品展は開催するという強い気持ちで、前に進んで行こうと思っております。

三重県立美術館はJR・近鉄「津」駅で下車し、西に向かうと徒歩十分のところにあります。是非足をお運び下さい。津は三重県の県庁所在地です。その津市には初代藩主、藤堂高虎、谷川士清、上野英三郎博士とたくさんの偉人達がいいます。士清は伊勢の国が生んだ国学者で、本居宜長と並び称される学者です。わが国最初の五十音順にならべられた、国語辞典『和訓栞』をま

とめました。生家は津市八町にあり、国指定史跡になっています。また、上野博士の像は東京上野だけでなく、近鉄久居駅東口にもあります。お出掛け下さい。

上半期事業がありませんでしたので、美術館周辺の案内をさせていただきます。

(谷 鴻風記)



上野英三郎博士とハチ公の像 (久居駅東口緑の風公園)



県指定文化財「紙本淡彩 谷川士清肖像画像」 (津市 蔵)

岐阜支部

●岐阜支部総会

日時 六月十三日(日)
会場 ホテルグランヴェール岐阜
参加者 二百三十二名

(コロナ禍にて多くは委任状)

坪井景照岐阜支部長の開会の挨拶、続いて本部よりのご来賓伊藤仙游理事長のご祝辞、その後令和二年度事業報告、収支決算報告、監査報告、令和三年度事業計画案、収支予算案の報告のち役員改選の報告がされ、すべて可決となり、新役員の紹介がされました。

今田紅浜新支部長の挨拶、参事林玲玉先生の閉会の辞にて終了しました。

●岐阜支部役員会議

七月二十三日(金) 岐阜柳ヶ瀬教室
・会報「岐阜」五十七号(七月発行)について

・第二十六回岐阜支部長について
・研修旅行について コロナ禍のリスクを考慮して中止に決定

・講演会、祝賀会(今年度三十周年に当たる)について、講演会講師候補は早めに検討して状況をみて進める。祝賀会は四年度には実施の予定にて検討する。

八月十九日(木) 岐阜柳ヶ瀬教室

・第二十六回岐阜支部展について
コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み延期とする。

令和三年十二月二十四日(金)～二十六日(日)の期間として、研修旅行の中止、支部展延期のお知らせを葉書にて関係者に通知する。

次回の役員会議を十月七日に決定
コロナ禍に於て事業が実施出来ない状況にあり、非常に残念な思いです。



支部役員会議